

二〇二三年五月二日

畦の蓼種落とさじと引きにけり  
破れなき蜘蛛の囀朝の日を弾く  
ゆらゆらと若葉の影や遊歩道  
薫風に句談義尽きぬカフェテラス

千鶴  
満天  
こすもす  
澄子

二〇二三年五月一日

車停め代田の畦を郵便夫  
背くらべして直立す今年竹  
顔みせるだけで孝行夏帽子  
地響きに犬遠吠えす雷雨かな  
花御堂水足しに来る寺男  
剪毛の羊居眠り心地かな

素秀  
せいじ  
宏虎  
むべ  
なつき  
豊実

二〇二三年五月一日

水車小屋取り囲みたる花あやめ  
詰め物は信濃新聞アスパラガス  
竹落葉絨毯めきし藪小径  
弓のごと撓む葉先に天道虫

愛正  
豊実  
せいじ  
千鶴

二〇二三年五月九日

子どもらはお菓子が目当て花まつり  
刈草を天地返しや風薫る  
通ひ来る風に機嫌や釣忍  
硝子器に青楓添へ京料理  
息災の一筆添へて新玉ねぎ  
五月雨ほとばしり散る鎖樋  
青白き月光捉へ蜘蛛の糸

なつき  
愛正  
素秀  
もとこ  
千鶴  
せいじ  
素秀

二〇二三年五月八日

草原を波打たせゆく風涼し  
御朱印の祢宜の手もとに緑さす  
里山に餌す音や草刈機  
尾を垂れて次の風まつ鯉幟

あひる  
せいじ  
千鶴  
やよい

二〇二三年五月七日

漁火の見ゆる宿窓明け易し  
法話聞く座に通ひくる若葉風  
湧く雲のごと中腹の椎の花  
口笛の通りすぎゆく南風の路地

はく子  
なつき  
せいじ  
素秀

二〇二三年五月六日

御朱印の墨薫風に乾きけり  
独り立ちできて喝采武者飾  
昇天のごとビル風が蝶攫ふ  
夏霧を纏ふ神なる三輪の山  
群雲の走り過ぎゆく月涼し  
女将呼ぶ蓋の開かない焼栄螺

せいじ  
かえる  
ぽんこ  
明日香  
むべ  
豊実

毎日句会みのる選・二〇二三年五月一日